

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成26年10月9日(2014.10.9)

【公開番号】特開2013-89980(P2013-89980A)

【公開日】平成25年5月13日(2013.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-023

【出願番号】特願2011-225478(P2011-225478)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/341 (2011.01)

【F I】

H 0 4 N 5/335 4 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月26日(2014.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 8 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 8 2】

テーブル記憶部 1 1 1 は、複数の異なる動作モード毎に、その動作モードでイメージセンサ 4 7 a を動作させるためのパラメータを対応付けて管理している管理テーブルを予め保持（記憶）している。なお、この管理テーブルは、図 4 の テーブル記憶部 4 2 に保持される管理テーブルの場合と同様に、図 7 を参照して説明したようにして予め生成される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 0 3】

DEF 1 3 4 は、累積位相 P として、予め、値 0 を保持している。DEF 1 3 4 は、デコーダ 7 5 から供給される水平同期信号に立ち下がりエッジが生じる毎に、保持済みの累積位相 P を、加算器 1 3 1 に出力する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 6 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 6 3】

しかしながら、例えば、周波数変換回路 4 5 は、イメージセンサ 4 7 a を構成する各ラインの 露光蓄積時間 のうち、異なる露光蓄積時間（露光蓄積時間を構成する水平同期期間 A と水平同期期間 B との構成比率が異なる露光蓄積時間）どうしの差に応じて、より高い周波数の同期信号生成用クロックを生成して出力するようにしてもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 6 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 6 5】

このため、イメージセンサ 47a を構成する各ラインの 露光蓄積時間のうち、異なる露光蓄積時間どうしの差（輝度の差）が大きく目立つときでも、異なる露光蓄積時間どうしの差を目立たない程度に小さくすることが可能となる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図22】

図22

